

■野口小蘋 南画家、日本画家。女性初の帝室技芸員。奥原晴湖とともに明治の女流南画家の双璧といわれた。

のぐちしょうひん

・ ・ ・ ・ ・ 1847= 大坂難波で、徳島出身の古医方松邨春岱の長女に生まれる。名は親子、字は清婉。

幼少時から、詩・書・画に親しみ才能を示し、

ペリー来航・1853= 6歳：

開国開港・・1854= 7歳：画業に就かせようとした両親により、四条派の石垣東山に入門。

松下村塾・・1856= 9歳：

桜田門外変・1860=13歳：

生麦事件・・1862=15歳：画の修行のため、父と北陸を数ヶ月にわたり巡遊、福井藩の絵師島田雪谷から画の手解きを受けるなどするが、旅の途次、父春岱が客死。残された母を養うため、

薩摩藩士密航1865=18歳：近江八幡へ遊歴し売画している。

大政奉還・・1867=20歳：京都へ移り、関西南画壇の重鎮日根対山に師事し、

明治維新・・1868=21歳：

山水画・花鳥画を学びながら、対山を通じて日下部鳴鶴・巖谷一六・長三洲・川田甕江、実業家で煎茶好事家の奥蘭田など多くの文人と知己となり、関西浮世絵などにも啓発を受けている。画の修行の傍ら、小林卓斎に就いて経学を修めた。この間、_“小蘋”を名乗り始め、

廃藩置県・・1871=24歳：上京、麴町に住んで_画業を本格化。美人画や文人の肖像画などの人物画を多く手がける。

学問のすすめ1872=25歳：「美人雅集図」、

明治6年政変 1873=26歳：画業の傍ら、岡本黄石に詩文を学ぶ。*皇后御寝殿に花卉図8点を手がける。

佐賀の乱・・1874=27歳：

初の民間工場1875=28歳：甲府横近習町の商家大木家に滞在し始め、大木家が野口家と親交のあった縁で、

西南戦争・・1877=30歳：対山の門弟であった野口正章と結婚、

大久保暗殺・1878=31歳：娘の小蕙(のち同じ南画家になる)を出産。野口家は近江商人の家柄で滋賀県蒲生郡桜川村に本家を置く酒造業{十一屋}を営み、甲府柳町に営業所と醸造工場があったことから、

琉球処分・・1879=32歳：一家で甲府へ移る。甲府では奇観で知られる御岳昇仙峡も描いた作品などを制作しており、商標図案や贈答物の絵付などを手がけ野口家の商売にも携わり、現存の大木家の美術コレクションにも小蘋作品がある。義父の野口正忠(柿邨)は自身も漢詩を読む文化人で、大木家当主と同じく著名な文人達と交流していたことから、依田学海・富岡鉄斎ら当代一流の文人との交流が生まれるが、夫正章は新しい事業としてビール醸造に着手していた事業に失敗して廃嫡となり、

明治14年政変1881=34歳：

新体詩抄・・1882=35歳：一家で再び上京。

岩倉具視没・1883=36歳：

秩父事件・・1884=37歳：東北地方を巡遊。

内閣発足・・1885=38歳：上州へ遊歴。

_日本画の復興運動に際して画才が目され、

帝国憲法発布1889=42歳 *華族女学校画学囑託教授となり、

帝国議会始・1890=43歳：第三回内国勲業博覧会に「西王母図」を出品し、妙技2等賞、

大本教・・・1892=45歳：「富貴百齡図」、

日清戦争始・1894=47歳：

日清戦争終・1895=48歳：_第四回内国勲業博覧会に「春秋山水図屏風」を出品し、妙技2等賞、

八幡製鉄始・1897=50歳：_「青緑春山儼陰山水図」、

_数々の博覧会や共進会で入賞し、関東南画を代表する画家と評されるようになる。英照皇太后に作品を献上し、皇室や官家など御用達の作品を多く手がけた。

田中正造直訴1901=54歳：

教科書疑獄・1902=55歳：恒久王妃昌子内親王や成久王妃房子内親王の御用掛を拝命する。

日露戦争始・1904=57歳：*女性初の帝室技芸員を拝命し、

日露戦争終・1905=58歳：正八位に叙せられた。

韓国反日暴動1907=60歳：_「箱根真景図屏風」。文展審査員に選ばれる。

_「春秋山水図屏風」、

韓国併合・・1910=63歳：

明治天皇没・1912=65歳：_「溪山清趣図」、

大正期には山水画を多く手がけ、

21ヶ条要求・1915=68歳：_「阿波鳴門・小松島図」。大正天皇即位の礼に際しては三河悠紀地方の「風俗歌屏風」制作を宮内庁から下命、竹内栖鳳の「主基殿屏風」と対になる御大典祝画屏風「悠紀殿屏風」を献上するなどして、

ロシア革命・1917=70歳：_没した。